

産神問答 (うぶがみもんどう)

語り手…徳山 千代子さん(保々見、明治37年生まれ)

昔々、遍路さんがサイの神さんのところで休んでいました。サイの神さんというのは、峰の境目にある神さんで、目の見えない神さんでもあり、そこを通るときには、みんながついてきた杖をあげると喜ばれて、目も治してくれるし、助けてくれるそうです。

さて、夜中になって、「サイの神さん、サイの神さん」と言って起こす者がおりました。遍路さんは、一はてな一と思って、聞き耳を立てていたら、箒(ほうき)の神さんと檐桶(たご)の棒の神さんでした。「村にお産がある。時間だけん、サイの神さん、行きましようや」「おう、おまえらちゃ来たか、そんな一緒に行くだわい」。そう言って神さんたちは村へ下って行ったそうですが、夜明けになって帰ってきて、「ああ、よかった、よかった。お産は無事にすんでよかっただいで、一人の男の子の方はかわいそうなことだ。気の毒だいでしゃあがねえだな」「女の子の方は、がいに幸せな子で、一日に塩を三合も使うような身分を持って生まれとっだいで、男の子の方は一年に一合の塩を使うだけしか運を持っておらんので、かわいそうなことだいで、しかたがねえだわい」と話し合っていたそうです。

それからまあ遍路さんは、一おかしいことを言うわいな。わしゃ夢見ちよだらあか。ま、とにかく下って聞いてみらん分かつただけん一と思って、それから村へ下って村人に、「夕べ、この村に産がありましたか」言って聞いたら、「はい、ありました。男の子と女の子と生まれて、そのニョウバン子(女の子)の方は、がいにいいとこの子でもねえだいで、男の子の方は、がいにいいとこの子だわい」と話したものですから、

一ああ、そげなら、夢だなかったわいな一とっていました。

それからまた、何年も経って、女の子が嫁さんになって行くようになってから、遍路さんは、神さんの言ったことが本当か嘘か、確かめようと、もういっぺん、その村へ行ったら、男の子の方は死んでしまっていて、もうおりません。しかし、女の子の方は酒屋の嫁さんになって、とても繁盛しておりました。遍路さんは村の人に男の人のことを、「どげな暮らしをしとったかいな」と聞きますと、「かわいそうに。身体が弱いでもないのに、することなすことが、いい方へ一つだけ向かんで、まっで乞食のやあな生活しとってな。そいで、そこの酒屋さんの嫁さんが同じ年の同じ日に生まれたというで、自分の兄弟のやあにえらいかわいがって、いつも家へ来りゃ握りして食わしたりしちよったにな、旦那さんがある日、奉公人にも示しがつかんし、格好が悪いけに、家やなんか入れて食わすことはならんけん、言われて、そっから、しかたがないだけん、風呂場へ連れて行って、火焚くとこの釜の前へ座らして、そこでいつもご飯やったりして、食べさせておったのに、そこで風呂場の灰を掻きながらご飯食べちよって、け、こつとり死んだとえ。そっでな、その女の子の方はがいに繁盛しちよって、土地を買って、墓立ててやっで、今でも祀(まつ)ちよとえ」と話してくれたそうです。

ですから、人間はいつもいいことしなければいけませんよ。それで檐桶の棒なんかでも箒でも何でも、おまえたちは踏んだり、蹴ったり、またがったりするけれど、そんなことをしたら罰が当たるから、もっと大切にしなさいよ。女の子は子どもを生むときには、箒の神さんも檐桶の棒の神さんも回り荒神さんも、みな寄ってこられなければお産はできないのだからね。ついうっかりして足に当たったりしたら、拝んだりしてちゃんと扱わなければいけないのですからね。

(昭和51年5月1日収録)

■聞き手…大上朋美、池田百合香、小新恵子、酒井董美

【解説】関 敬吾『日本昔話大成』でこの話の戸籍を調べると、「本格昔話」の「五 運命の期待」の中の「産神問答」に当てはまる。この話は四種類になる。一つは父親が産神の問答を聞いて今生まれる自分の男児には福運がなく、同じ日に生まれた貧乏人の女兒には運があり、将来、その女兒と息子を結婚させるが、やはり、男の子の方はせつかく結婚しながら離婚して運から見放される、という話であり、二つめは炭焼きの子型で、炭焼きの子の運を産神が占い、子はその通りに王様になる。三つめは蛇と手斧型の話であり、産神の言うように蛇に刺されようとした息子を、父親は手斧で蛇を追い払おうとして、誤って息子を切り殺してしまう話である。最後の四つめのタイプが「水の神型」と呼ばれているもので、河童などの命を取られる運命であるが、父親の機転でその運命から逃れる話になっている。今回の話は最初の話型の変形であり、サイの神に宿る男の子の父親は出てこなくて、それに代わって遍路さんが登場しているのである。

隠岐島前高校郷土部収録

海士町の民話から(14)

■再話・解説

酒井董美

(山陰民俗学会会長、元隠岐島前高校郷土部顧問)



■絵：福本隆男(崎出身、三郷市在住イラストレーター)